

令和4年度 京都府スーパーサポートセンター (SSC) 主催 聴覚障害のある児童生徒に関わる指導者研修会 II 報告



中井 弘征 先生

1 テーマ

令和4年11月

「地域で学ぶ聴覚障害のある児童生徒への支援について

～障害理解を中心に～」

2 動画配信期間 令和4年8月29日(月)から令和4年9月30日(金)まで

3 開催形態 YouTubeによる動画限定配信

4 内容 「障害認識を高める支援」「障害理解学習」

「コミュニケーションストラテジーの習得」

5 講師 京都府専門家チーム委員・愛知淑徳大学 中井弘征先生

今年度2回目の指導者研修会をYouTube動画限定配信で実施しました。

今回は府専門家チーム委員のお一人であり、愛知淑徳大学で教鞭をとられている中井弘征先生に、地域で学ぶ聴覚障害のある児童生徒への支援について、障害理解のお話を中心に御講演いただきました。聴覚障害のある児童生徒がどのようなことに悩んでいるのか、自身の障害認識をどう深め、周りに支援を求めるためにどのような力を身に付けるべきか、実践事例を交えながらお話いただきました。また教員が障害理解教育を実施するための具体的内容にも触れて、お話いただきました。

参加された先生方の御感想からは、聴覚障害のある児童生徒がどのような困難を抱えることが多いのか、さらにその支援方法について、関心を寄せておられることを改めて感じました。御感想をもとに、今後もよりよい研修を企画・運営していきたいと思っております。

配信動画より〔一部抜粋〕

コミュニケーションストラテジーの習得

・成人領域のコミュニケーション指導の中で最も重要視されるものが「コミュニケーションストラテジーの習得」である。

・コミュニケーションストラテジーとはコミュニケーションに難渋した場面でうまく制御することによって、良好なコミュニケーションを確保する戦略のこと。「備えのストラテジー」「修復のストラテジー」とがある。

・成人になったらこのような対応ができるように、子どもの成長に合わせてながら指導・支援を進める必要がある。

障害理解学習

1. 難聴疑似体験

・通常学級の子ども達も聴覚障害児・生徒の行動が理解できずに困っている。

・難聴疑似体験を通して聴覚障害児・生徒のきこえにくさや困り感を体験し理解を深める。

2. 準備物

①耳栓、イヤーマフ、または耳栓+イヤーマフで遮音。

②ヘッドホンからノイズをきかせて会話をきこえにくくする。

①の場合は20～30dBの伝音難聴が体験できる。この状態に背景音として音楽やノイズをプラスするとより会話が聞こえにくくなる。

②の場合は、小型音楽プレーヤーにノイズ(スピーチノイズなど)を録音・再生しヘッドホンで聞かせる。耳の保護のためには耳栓してヘッドホンを装着するとよい。音量を上げると全く会話が聞こえない状態も体験できる(要注意)。

【視聴後アンケートより】

「今後の教育活動に生かせるか」 「YouTube動画限定配信について」



研修会(動画視聴後)の御感想〔一部抜粋〕

自分の教師人生で、あまり難聴児と関わった経験が無く、先生のお話は大変興味深く伺うことができました。聴こえ方にも個人差があり、通常にも聞き取りにくい生徒もいる中で、教師として、そして子どもにどのように指導していくのか示唆をいただきました。ただ手立てを与えるだけでなく、本人の成長も促しながら工夫していく必要があると感じました。

個人差のある障害認識について、本人の障害理解や障害と向き合うための実践事例、また障害理解のための実践について、それぞれの立場や想いに寄り添った講義で、すぐに活用できる内容でした。特に、障害をもつ子どもが自分からお願いすることは難しいということを理解した上で、障害認識を進めることの大切さが実感できました。

難聴児がどのように対応できるようにしていけば良いのか、詳しくお話をしていただき、とても勉強になった。理解教育の進め方も、参考になった。理解学習の教材ややり方も紹介してもらえたので、活用していきたいと思う。